

第3号様式（第8条関係）

若年がん患者妊孕性温存治療支援事業費補助金交付申請に関する証明書
(原疾患治療実施医療機関用)

以下のとおり、原疾患治療により生殖機能が低下し、又はこれを失う可能性があるとして診断された患者に対する原疾患治療及び妊孕性温存治療（※1）を実施することについて、説明し同意を受け、原疾患治療を実施した（実施予定である）ことを証明します。

年 月 日

医療機関の所在地
医療機関の名称
原疾患主治医氏名
(自署または記名押印)

妊孕性温存療法を受けた者	ふりがな		
	氏名		
	生年月日・性別	年 月 日生	男 ・ 女
治療方法	I 原疾患について		
	原疾患名（※2） 	左記の診断日 年 月 日 診断医療機関名 ()	
	II 原疾患に対する治療方法の妊孕性温存低下リスクの評価について		
該当する番号に○を付けてください。 (複数可)			
1 「小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン」（日本癌治療学会）の妊孕性低下リスク分類に示された治療 (1の場合は以下も確認すること) ☐ 具体的な治療内容について、化学療法および放射線治療による性腺毒性のリスク分類表にチェックを付け、添付済			
2 長期間の治療によって卵巣予備能の低下が想定される治療（ホルモン療法等）			
3 造血幹細胞移植を実施する治療			
4 アルキル化剤を投与する治療			
事業の対象となる原疾患治療を開始した日又は開始予定日		年 月 日	
妊孕性温存治療実施医療機関名		()	
妊孕性温存治療費助成の申請回数 (いずれかの番号に○を付けてください)		1 1回目の申請 2 2回目の申請（1回目：静岡県内）→市町名（ ） 3 2回目の申請（1回目：静岡県外）→都道府県名（ ） 4 上記いずれにも該当せず、原疾患治療の証明のみ	

※1 生殖機能が低下し、又はこれを失うおそれのある原疾患治療に際して精子、卵子又は卵巣組織を採取し、これを凍結保存するまでの一連の医療行為、若しくは卵子を採取し、これを受精させ、胚（受精卵）を凍結保存するまでの一連の医療行為のことです。

※2 原疾患名の欄には、がん等の診断名（例：悪性リンパ腫、再生不良性貧血など）を記載してください。